

国連防災世界会議 シンポジウム・セミナーの概要

| 登録番号 | 団体名 | シンポジウムタイトル | TEL | FAX | E-mail | URL | 事前申込みの有無 | 予想参加人数 | シンポジウム概要 | 通訳の有無 | 決定会場 | 使用日時 |
|-------|---|--------------------------------------|--------------|--------------|------------------------------------|---|-----------------------------|---------|---|-------|---------------------------------|-------------------------------------|
| 10001 | 兵庫県、OCHA神戸、アジア防災センター | アジア防災会議2005 | 078-262-5540 | | rep@adrc.or.jp | http://www.adrc.or.jp | | 200 | アジア地域を中心とする各国防災担当者および国連機関、国際機関などの関係者、防災に関心のある一般の方が一同に会し、アジア地域における災害リスクや脆弱性を軽減するため、一般公開により、数カ国からの優良事例の発表を中心に行う。日英通訳つき。 | あり | 神戸国際会議場 301会議室 | 1月19日(水) 9:20-12:00 |
| 10002 | 特定非営利活動法人「家街 安全支援機構」 | 予想される大地震に備えて | 06-6456-1010 | 06-6456-1073 | ohishi@npo-lso.info | http://www.npo-lso.info | 必要 当日参加可能 | 200-300 | 阪神・淡路大震災をはじめ、数々の大地震を経験してきた我々が「今何を考え、何をすべきか」について木造住宅の耐震における第一人者でもある工学院大学教授の宮澤健二氏と、京都大学防災研究所巨大災害センター教授の河田徳昭氏に講演を聴き、阪神・淡路大震災の被災者でもあり震災以降設計姿勢が変わり、海外において数々の賞を受賞された建築家の石丸伸明氏、ラジオパーソナリティとしてもおなじみの小山乃里子氏の被災経験をもとに、宮澤、河田両教授に加えて当団体の理事長でもある大久保昌一大阪大学名誉教授をパネリストとして今後の防災について皆様と一緒に考えていきます。 | なし | 神戸国際会議場 503-604-605会議室 | 1月19日(水) 14:00-17:00 |
| 10003 | 社団法人 日本損害保険協会 | ラジオフォーラム 阪神淡路大震災から10年-震災時におけるラジオの役割- | 03-3255-1215 | 03-3255-1236 | consumer@sonpo.or.jp | http://www.sonpo.or.jp | | 300 | 地震による被災者の生活の安定を目的とする法律(地震保険法)に基づき、政府と損害保険会社が共同で運営している「地震保険」について、理解と普及を図るため毎年実施している広報キャンペーンの一環として、(社)日本民間放送連盟、ラジオ聴衆者会との共催によりラジオフォーラムを開催する。民放ラジオ全101社のパーソナリティ401名が一堂に会するこのフォーラムでは、地震保険とラジオへの期待、地震災害とラジオの役割をテーマとした2つの講演を行うほか、地震等を体験したラジオ局の出演者等によりパネルディスカッションを行い、震災時におけるラジオの役割を検証し、必要な情報提供等のあり方を議論する。 | あり | 神戸国際会議場 メインホール | 1月22日(土) 13:30-16:20 |
| 10004 | 社団法人 日本損害保険協会 | ぼうさい探検隊フォーラム-防災教育のあり方を考える- | 03-3255-1294 | 03-3255-1236 | npo@sonpo.or.jp | http://www.sonpo.or.jp | 必要 | 300 | 小学生向けの防災教育をテーマとして、朝日新聞社、コネスユ、日本災害救援ボランティアネットワークとの共催により「ぼうさい探検隊フォーラム」を開催する。ぼうさい探検隊は、子どもたちが楽しみながらまちを探検し、自らの目で防災や防犯に関する様々な施設や設備を発見することで「防災意識」や「地域への関心」を高めていく実践的な防災教育プログラムである。フォーラムは、「ビデオによる全国各地の活動紹介」「ぼうさい探検隊マップコンクールの表彰」「防災教育に関するパネルディスカッション」の3部構成で実施予定。 | あり | 神戸国際会議場 301会議室 | 1月19日(水) 14:00-17:10 |
| 10005 | APN、WHO健康開発総合センター、兵庫県 | APN WHOパブリックフォーラム 気候災害と人間の健康 | 078-230-8017 | 078-230-8018 | tmitani@apn.gr.jp | http://www.apn.gr.jp | 必要 | 200 | 気候変動は、すでに自然災害の頻度と激しさを増大させており、そのような災害を克服するため、広範囲に及び知識、知恵、資源を結集し、効果的に組み合わせることが必要である。減災に向けた国際的な協力の相乗効果をもとめるために、APN(アジア太平洋地域変動研究ネットワーク)及びWHO健康開発総合センターが共同で開催している国際防災・HA(Health)に設立された。同協議会のイニシアチブの一つとして、気候災害と人間の健康に焦点をあて、APNとWHO健康開発総合センターが国連防災世界会議において合同セッションを行う。 | あり | 神戸国際会議場 301会議室 | 1月22日(土) 9:00-12:00 |
| 10007 | 神戸市 | 下水道の地震対策に関するシンポジウム | 078-322-5449 | 078-322-6088 | gesui_keikaku@office.city.kobe.jp | | 必要 | 約300 | 平成17年1月は阪神・淡路大震災から10年の節目の年である。下水道の地震対策のシンポジウムは被災地神戸からの情報発信事業の一つとして、国や関係行政機関を主な対象とし、震災の経験を踏まえた下水道に関する被害と復旧・復興の過程などを紹介し、今後の安全な都市づくりに活かしてもらうためのものである。 | なし | 神戸国際会議場 メインホール | 1月21日(金) 13:30-17:15 |
| 10008 | 兵庫県教育委員会 | 阪神・淡路大震災10周年教育復興の集い | 078-362-9441 | 078-362-4283 | shinichirou.kitagawa@pref.hyogo.jp | | | 600 | 阪神・淡路大震災から10年目を迎え、10年間の防災教育の取組を総括し、その成果や今後の課題を広く県内外に発信する。 | なし | 神戸国際会議場 メインホール | 1月19日(水) 10:00-12:00 |
| 10009 | 兵庫県教育委員会、独立行政法人教育研修センター | 各地域における学校安全の基礎となる指導者の養成を目的とした研修 | 078-362-9441 | 078-362-4283 | shinichirou.kitagawa@pref.hyogo.jp | | | 600 | 幼稚園、小・中学校、高等学校、盲・聾・視覚学校における防災教育等の全国規模の研修を行い、教員等の指導力の向上に資する。 | なし | 神戸国際会議場 メインホール | 1月20日(水) 9:50-17:00 |
| 10010 | 地域安全学会 | 第1回国際都市防災会議 | 03-3615-3026 | 03-3615-4639 | icudr@zat.att.ne.jp | | | 200 | 本会議は世界の防災研究者及び実務者が会して協力的な都市防災のあり方を議論する国際会議であり、今回の会議では「阪神・淡路大震災は1995WTC連続爆発テロ災害などの都市巨大災害からの長期的復興の過程から得られた教訓、2.持続的発展可能な防災を達成について、地球的な規模で共有化することを目指す」として、全体会議では、1.復興からの教訓、2.持続的な防災に関する地域での取り組みについて議論を行い、分科会では以下の9つのテーマについて議論を行う 1.防災計画、2.被害想定、3.津波、4.都市防災、5.防災教育、6.リスクマネージメント 7.企業防災、8.復興過程の国際比較、9.長期的復興過程の理論。 | あり | 神戸ベイシェラトンホテル&タワーズ/神戸国際展示場 2B会議室 | 18(火)~20(水) 全日 /1月20日(水) 9:15-17:00 |
| 10011 | 水害研究室 | 洪水に対する住民啓発手段に関するシンポジウム | 029-864-7619 | | miz2000@anet.ne.jp | http://www.nilim.go.jp/lab/rcg/newhp/english/index.html | | 60 | 洪水への備えとして、住民意識の啓発は全ての対策の基礎となるものである。そこで意識啓発の一環として、リスク評価等が進められているが、認知率は決して高くなく住民等にとって分かりやすいものとはなっていない可能性がある。このため、各種住民意識啓発手法、およびこれらに関連した施策や取り組み事例に関するシンポジウムを開催する。 | あり | 神戸国際会議場 502会議室 | 1月19日(水) 9:30-11:45 |
| 10013 | 兵庫県立大学 看護学部 21世紀COEプログラム | 災害と健康-災害発生後の中・長期的な健康再生力の創造- | 078-925-9610 | 078-925-0872 | | http://www.coe-cnas.jp/index.html | | 200 | 洪水や地震などの自然災害、戦争やテロなどの人為的災害といった多種多様な災害が世界中で発生しており、最近では核・化学・生物兵器による災害の脅威までも日常的となっており、大規模災害発生時の救命救急については、提供する医療ケア内容も明らかになり、系統的に対応できるようになってきている。しかし一方で、災害後の中・長期的な人々の健康状態や医療ケアの提供内容などは、今後明確にしていかなければならない。災害からの復興への取り組みが本格的になる中で、外部支援組織は増進し、被災地の人々の関心は薄れ、個々の被災者間に格差が生じる時期ともいえる。本シンポジウムでは、備えに加えて、中・長期的な人々の健康状態や健康を支えるためのケア方略を検討する。 | あり | 神戸商工会議所 商ホール | 1月18日(火) 14:00-17:00 |
| 10014 | 災害ボランティア世界会議実行委員会(事務局 日本災害救援ボランティアネットワーク) | 災害ボランティア世界会議 | 078-231-9011 | 078-231-9022 | tanaka@nvnad.or.jp | http://www.nvnad.or.jp/ | 必要 e-mail: wcvd@nvnad.or.jp | 100-150 | 阪神・淡路大震災から10年、私たちは災害が起こるたびに国内外において多くのボランティアが汗を流し、被災地の救援に大きな役割を果たすのを目にしました。まさに災害ボランティア文化が創出された10年の歩みでした。これからの10年は私達がどきどきと向き合い、どう力を注ぎ、どう課題に取り組む必要がある。そのために先人の知恵や地域・企業等での被災・防災活動の例や世界での命題に取り組む方々に学ぶことで知恵を集積し、広め、被災の文化を構築することが重要です。この会議では国内外の災害救援や被災 防災に取り組むボランティア団体のリーダーを招き、知恵の交換を行うとともにネットワークづくりを目指します。 | あり | 神戸国際会議場 502会議室 | 1月21日(金) 10:00-16:30 |
| 10015 | 全国海岸事業促進連合協議会 共催(社)土木学会 | 海岸シンポジウム(津波 きたるべきそのとに備えて) | 03(3214)2924 | 03(3214)2926 | hamada@gyokou.or.jp | http://www.gyokou.or.jp/ | | 400 | 我が国沿岸では、海洋性地震等に伴う大津波が繰り返し発生しており、そう遠くない将来、東海、東南海、南海地震などによる大津波により、同時多発的に各地に大きな津波が襲来することが危惧されています。このため、津波被害軽減化の取り組みを、国や各地方の自治体、地域住民らが協力しあって進めているところですが、十分とはいえない状況です。そこで津波被害軽減化に向けた地域の取り組みが一層進められるよう過去の教訓を踏まえ、見直しと新たな問題も含めて一緒に考えてみたいと思います。併せて、国連防災世界会議の参加事業として、我が国と海外との津波防災協力がより一層深まる契機となることを期待するものです。 | あり | 神戸国際会議場 メインホール | 1月19日(水) 14:00-17:30 |

国連防災世界会議 シンポジウム・セミナーの概要

| 登録番号 | 団体名 | シンポジウムタイトル | TEL | FAX | E-mail | URL | 事前申込みの有無 | 予想参加人数 | シンポジウム概要 | 通訳の有無 | 決定会場 | 使用日時 |
|-------|---------------------------|--|--------------|--------------|----------------------------------|--|---|--------|--|-------|--------------------------------------|-------------------------|
| 10016 | 独立行政法人建築研究所 | ビルとすまいの地震対策シンポジウム | 029-879-0689 | 029-864-2989 | narafu@kenken.go.jp | http://www.kenken.go.jp/ | 必要 e-mail kenken@kenken.go.jp | 200 | 独立行政法人建築研究所は、国土交通省、兵庫県、建築専門家団体等と連携して、建築・住宅の所有者等や建築・住宅関係事業者、関係行政機関等を対象に、建築・住宅の地震対策の意義、効果や木造住宅の耐震補強技法、リスク分析手法を用いた地震対策の方法及び適用事例についての説明、地元地方公共団体及び独立行政法人建築研究所の取り組み状況の報告、専門家によるパネルディスカッション等を行うとともに、建物所有者等からの相談への対応の場を設ける。 | なし | 神戸国際会議場 502会議室 /503.504.505会議室 | 1月18日(火) 10:00-16:30 |
| 10017 | 兵庫県長寿社会課 兵庫県老人福祉事業協会 | 震災10年 高齢者が安心して暮らせる「住まうと」地域生活支援 を考える | 078-362-3187 | 078-362-4263 | choujushakaika@pref.hyogo.jp | | | 61 | LSAに対する専門相談会を開催し、LSA活動の支援体制を強化するとともに、資質の向上を図るため、研修 交流会を実施する。 | なし | 神戸国際展示場 2B会議室 | 1月18日(火) 14:00-15:00 |
| 10020 | 独立行政法人 国際協力機構 | 災害に強い国づくり 人づくり - 国際協力の成果とよりよい支援に向けて - | 03-5352-5376 | 03-5352-5348 | Nagaishi.Masafumi@jica.go.jp | http://www.jica.go.jp/ | | 350人 | 災害に脆弱な開発途上国において、JICAはこれまで数多くの防災ODAを実施してきた。シンポジウムでは現在実施中あるいは終了した防災プロジェクトの実施機関代表者らを招聘し、各プロジェクトの概要や取組状況及び終了後の成果や課題について発表する。さらに、日本の有識者や一般参加者も交えて、防災事業にかかるこれまでの教訓、解決すべき課題や今後の防災事業におけるよりよい国際協力のあり方について、持続可能な開発 や 人間の安全保障 をキーワードに意見交換する。内容構成は議事録の基調セッションに始まり、第一部 地震と第二部 総合防災 の二部構成からなり、その中で映像紹介やパネル展示も行う。 | あり | 神戸国際会議場 メインホール | 1月21日(金) 9:15-12:30 |
| 10021 | 財団法人 神戸国際観光コンベンション協会 | 地方自治体の現状報告について (第9回震災対策技術展) | 078-303-0029 | 078-302-1870 | info-t@kcva.or.jp | http://www.kcva.or.jp | 必要 | 200 | 防災先進自治体から地震対策または防災に関する取組みなどを報告することにより、来場者や出展者等に対し、地震対策及び防災ネットワークの構築や新技術開発への動機付け等、多様な機会を提供する。報告を行う地方公共団体 静岡県、愛知県、三重県、和歌山県、徳島県、高知県、京都府、横浜市、神戸市) | なし | 神戸国際展示場 3A会議室 | 1月19日(水) 9:30-16:45 |
| 10022 | 神戸の地震 減災研究会 | 神戸の地震 減災研究会 研究成果報告会 (第9回震災対策技術展) | 078-322-5031 | 078-322-6009 | chikiseisaku@office.city.kobe.jp | | 必要 〒655-8570神戸市中央区加納町6-5-1神戸市企画調整局総合計画課内 | 150 | 平成11年3月に、阪神 淡路大震災を教訓とし、産官学の連携により発足した神戸の地震研究会 は、高密度地震データベース 神戸JIBANKUN の普及・データ更新や、兵庫県南部地震の揺れの再現、および将来起こり得る地震による被害の予測手法の構築など、一定の成果を得た。その後、震災10年目と1年目の時点を迎えた平成16年には、被災の意思を汲み、研究成果を広く社会に発信し、安全 安心なまちづくりを目指すため 神戸の地震 減災研究会へ発展的に移行した。今回は、神戸の地震研究会での5年間の研究成果と、神戸の地震 減災研究会での研究状況 今後の方向性について報告する。 | なし | 神戸国際会議場 503-504-505会議室 | 1月20日(木) 9:30-12:00 |
| 10023 | 神戸市すまいの安心支援センター (すまいるネット) | すまいの耐震化のすすめ (第9回震災対策技術展) | 078-222-0186 | 078-222-0106 | Kobayashi.kenichi@kobe-jk.or.jp | http://www.smilenet.kobe-jk.or.jp/index.html | 必要 | 120 | 阪神淡路大震災においては、死者全体の8割を超える方々が、建物の倒壊が原因でその確い命を失った。このことから生命を守る鍵としての住宅の安全確保の重要性が、改めて認識された。今回のセミナーではすまいるの耐震化をすすめるため、耐震改修のポイントや改修方法、すまいるの工夫などについての知識向上を図る。 | なし | 神戸国際会議場 502会議室 | 1月22日(土) 14:00-16:30 |
| 10024 | 日本地震工学会 | 防災担当者へ伝えたいこと-震災時対応者にとっての10年- (第9回震災対策技術展) | 03-5730-2831 | 03-5730-2830 | office@general.jaeo.gr.jp | www.jaeo.gr.jp/ | 必要 | 100 | 阪神淡路大震災時に消防 警察活動に直接関わった方々に10年を振り返ってもらい、地震活動期に入った関西圏において、防災に関する取り組み及び今後の防災対策の方向性について講演や討論を通して防災関係者だけでなく、広く一般市民の方にも震災対策の必要性を訴える。 | なし | 神戸国際会議場 401-402会議室 | 1月22日(土) 13:30-16:40 |
| 10025 | 特定非営利活動法人 危機管理対策機構 | D-PACプロジェクト 2005 緊急対応シミュレーション (第9回震災対策技術展) | 03-3519-6270 | 03-3519-6255 | hosotsubo@cmpo.org | http://www.cmpo.org | 必要 | 100 | D-PACプロジェクトは行政任せ、人任せではなくコミュニティに共有する住民 行政 企業 ボランティアの人々が互いに知恵を出し、協力し合い、来たときは来たときという身の考え方で、来たときどきどき対応するのだからという前向きな考え方で災害に対して前向きかつ、積極的取り組み、災害に強いコミュニティを目指した教育プログラムです。災害発生時の緊急対応能力の向上を目指し、地図を用いたシミュレーションを実施いたします。 | なし | 神戸国際展示場 3B会議室 | 1月18日(火) 14:00-17:00 |
| 10026 | 社団法人 日本建築学会 | どう活かす地震の教訓 - 地震防災研究の10年に学ぶ - (第9回震災対策技術展) | 03-3456-205 | 03-3456-2058 | saito@aj.or.jp | http://www.aj.or.jp/ajhomej.htm | 必要 | 150 | 1995年1月に発生した兵庫県南部地震 (阪神 淡路大震災) は、わが国における戦後最大の震災となり、安心して住み続けられる建築 都市づくりの一翼を担ってきたわが建築界への衝撃はきわめて大きなものであった。日本建築学会は建築の学術 技術 芸術の進歩発展を目的とする専門家集団としての使命を厳重に受け、学術的 規範的見地より地震発生直後から今に至るまで、学術的調査 分析 研究を様々な観点から行ってきた。震災発生後の地震防災総合研究の10年の歩みを検証し、この間、明らかになったこと、残された課題は何かを議論し、次の大震災に向けて何をすべきかを皆さんとともに考えます。 | なし | 神戸国際展示場 2B会議室 | 1月21日(金) 14:00-17:30 |
| 10027 | 社団法人 日本技術士会近畿支部建設部会 | 大震災を契機にNPO法人 都市災害に備える技術者の会 が創設された (第9回震災対策技術展) | 06-6832-2985 | 06-6832-2985 | pe@ipej-knk.jp | http://www.ipej-knk.jp/ | 必要 | 200 | 阪神 淡路大震災の残した教訓は多方面に亘ったが、私達専門技術者だけでなく、各関係者の連携時、緊急時を通しての連携プレイが不完全だったことである。これは各分野専らに専ら、分業化しているにも拘らず、これを総合的に総括して対策をたて対応行動をとることができぬ為、その被害を大きくした。この点に着眼し技術士会近畿支部建設部会は、まず多種部門にわたる技術士会全員に働きかけ組織化を進め、他方で産官学にも呼びかけて一般民間人とも同一テーブルに着いて都市災害に備える活動をするような組織づくりをしました。これは、第4回から継続して本展の参加者連と創造りあげたNPO法人であり、この活動内容を先を語り合う。 | なし | 神戸国際会議場 503-504-505会議室 | 1月20日(木) 13:00-17:00 |
| 10028 | 京大防災研究所 / 巨大災害研究センター | 第5回比較防災学ワークショップ みんなで防災の知恵を共有しよう (第9回震災対策技術展) | 0774-38-427 | 0774-31-8294 | kawata@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp | http://www.drs.dpri.kyoto-u.ac.jp | | 250 | 日米共同研究の成果発表等を通して、阪神淡路大震災の教訓を広く共有する。自然災害は、自然現象であり同時に社会現象でもあります。阪神淡路大震災をきっかけとして、災害に強い社会を作るためには社会現象としての災害についての研究の必要性が明らかになりました。このワークショップは、さまざまな角度から生活と防災の関係について比較 検討する場を作ることを試みます。地域、時間、季節、立場、年齢、男女、日米等の比較を通して、自分なりの比較の視点を持つことで、防災についての新しい発見が生まれることを期待しています。会場内で自由に活発な議論や意見交換したいと考えています。 | なし | 神戸国際展示場 3A会議室 | 1月20日(木) 10:00-12:00 |
| 10029 | 京大防災研究所 / 巨大災害研究センター | 第5回比較防災学ワークショップ みんなで防災の知恵を共有しよう (第9回震災対策技術展) | 0774-38-4275 | 0774-31-8294 | kawata@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp | http://www.drs.dpri.kyoto-u.ac.jp | | 250 | 日米共同研究の成果発表等を通して、阪神淡路大震災の教訓を広く共有する。自然災害は、自然現象であり、同時に社会現象でもあります。阪神淡路大震災をきっかけとして、災害に強い社会を作るためには社会現象としての災害についての研究の必要性が明らかになりました。このワークショップは、さまざまな角度から生活と防災の関係について比較 検討する場を作ることを試みます。地域、時間、季節、立場、年齢、男女、日米等の比較を通して、自分なりの比較の視点を持つことで、防災についての新しい発見が生まれることを期待しています。会場内で自由に活発な議論や意見交換をしたいと考えています。 | なし | 神戸国際展示場 3A会議室 | 1月21日(金) 10:00-17:00 |
| 10030 | 京大防災研究所 / 巨大災害研究センター | 災害対応研究会 公開シンポジウム 災害対応にGISは使えるか? (第9回震災対策技術展) | 0774-38-427 | 0774-31-8294 | kawata@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp | http://www.drs.dpri.kyoto-u.ac.jp | | 250 | 阪神淡路大震災をはじめとする過去の災害対応事例の研究や諸外国が採用する危機管理体制の比較検討を通じて、どのような原因により発生する危機であって効果的な危機対応ができる一元的な危機管理体制の構築を目指す。その中でGIS (Geographic Information System 地理情報システム) という言葉はいろいろ聞くところでお聞きになったことがあると思います。でも、何か難しい、高価で、どう使えばいいのかわからず、自分とは無縁なものと思われていたかもしれませんが、このGISが危機発生後の対応をどのように効率化できるのか、どのようにすれば身近なものにできるのかについて議論していきたいと思えます。 | なし | 神戸国際展示場 3A会議室 | 1月20日(木) 13:30-17:00 |

国連防災世界会議 シンポジウム・セミナーの概要

| 登録番号 | 団体名 | シンポジウムタイトル | TEL | FAX | E-mail | URL | 事前申込みの有無 | 予想参加人数 | シンポジウム概要 | 通訳の有無 | 決定会場 | 使用日時 |
|-------|--|---------------------------------|-----------------------|--------------|---------------------------------|---|---|---------|---|-------|------------------------|----------------------|
| 10031 | 特定非営利活動法人 都市防災研究会 | 防災と福祉のまちづくりセミナー (第9回震災対策技術展) | 045-844-2885 | 045-844-2894 | info-t@kova.or.jp | http://www6.plala.or.jp/takasima/bosai/ | 必要 | 100 | 新潟豪雨にもみられる通り、犠牲者は全て高齢者を中心とする要援護者であった。地域コミュニティにおける、プライバシーの壁を越えまちづくりの推進の必要性を語り合う。 | なし | 神戸国際会議場 501会議室 | 1月20日(木) 10:00-12:00 |
| 10032 | JEARN震災メモリアル事業実行委員会 | 復興への思いが世界を包む 絵画展 写真展とテレビ会議 | 078-251-6833 | 078-251-6833 | 20050117@jeam.jp | http://www.ndys.jeam.jp/ | | 200 | 平成17年3月28日 防災世界子ども会議」に向けて平成16年9月からプロジェクトを開始しました。プロジェクトの中間のまとめとして、平成17年1月18日に淡路夢舞台を会場に、世界の国々の子もたちがインターネットを通してテレビ会議で交流を行います。イラン・バム地震の被災地から子どもたちの描いた絵画や今のバムを伝える写真と新潟 中越地震に向けられた世界の子もたちのメッセージなどを展示します。 | なし | 淡路夢舞台 国際会議場 | 1月18日(火) 13:30-17:00 |
| 10033 | 地震 津波防災と福むらの火神戸実行委員会 | 地震 津波と福むらの火こどもワイヤミット | 078-574-0701 | 078-574-0702 | ngo@pure.ne.jp | | 必要 | 600 | 各界を代表する大人と子供達が「阪神淡路大震災からの学び」について話し合う会議。自然災害の脅威や防災対策について学習することが目的。サミットは複数のプログラムで構成されるが、中では、福むらを通して津波から救った男の話を題材にした人形劇「福むらの火の上演も行われる。その他にも、命の尊さ、地震 津波の怖さ、助け合い支え合い大切さ、語り継ぐことの大切さなどをテーマにしたディスカッションを行う予定。 | なし | 神戸国際会議場 メインホール | 1月22日(土) 9:30-11:40 |
| 10034 | 治山懇話会 | 治山シンポジウム | 03-3501-4756 | 03-3503-6499 | saeki@nm.maff.go.jp | | | 300-400 | 地震災害と治山 阪神 淡路大震災から10年を経て、東南海 南海、日本海溝・千島海溝周辺に依る地震対策の強化が求められる中で、新潟県中越地震災害が発生したことを踏まえ、地震災害を防止する森林の効果について検証しつつ、地震に対して森林の機能を高め、かつ補充する治山の在り方について議論する。 | なし | 神戸商工会議所 神高ホール | 1月21日(金) 14:00-16:40 |
| 10035 | 国際連合地域開発センター防災計画兵庫事務所、兵庫県、その他 | 国際シンポジウム 安全な地域社会をめざして、 | 078-262-5560 | 078-262-5568 | okazaki@hyogo.uncrd.or.jp | http://www.hyogo.uncrd.or.jp/ | | 200 | シンポジウム「より安全な地域社会へ向け、」を二つのテーマで開催します。第1のテーマとして、防災におけるパートナーシップの構築」について、世界中のコミュニティベースの防災対策(CBDM)に関する事例を基に、持続可能なCBDMのパートナーシップを構築に向けて議論します。第2のテーマは「危険住宅を減らすリスクの低減」として、安全な住宅建築を目指す上で欠如している要素や、途上国に適した資源や技術をどのように災害リスク低減のための安全な住宅建築に生かしていくか等について議論し、また視覚的に耐震建築の必要性を理解してもらうことを目的とした「観劇台実演」を実施します。 | あり | 神戸国際会議場 401-402会議室 | 1月20日(木) 9:30-17:30 |
| 10036 | 阪神 淡路大震災救援 復興兵庫県民会議 | 生活再建10年の到達と課題 | 078-371-4560 | 078-371-4559 | to01-@kh.rim.or.jp | http://www.kh.rim.or.jp | | 130名 | 阪神 淡路大震災発生から10年、被災者は人間的に暮らしを取り戻しているのか、この問題を中心に、10年間の被災者の実情、日本における被災者支援の政策と制度の変遷、被災者の生活再建を実現するための各分野の取り組み、エピソードなどを諸外国との比較をしながら、現在の到達点と自然災害等日本の課題を明らかにしたい。震災後10年になつてまちづくり、福祉問題、制度問題など多面的に関わってきた被災者と研究者、阪神 淡路大震災以外の自然災害を経験している被災者、研究者をまじえて、幅広い視点から議論し、今後の展望を提起します。 | あり | 神戸国際展示場 3B会議室 | 1月20日(木) 14:00-17:00 |
| 10037 | 神戸大学都市安全研究センター | アジア地域の大都市における災害軽減策 (第9回震災対策技術展) | 078-803-6437 | 078-803-6394 | ytgeotec@kobe-u.ac.jp | | 必要 | 200 | 神戸大学都市安全研究センターでは、毎年この機会に防災に関するシンポジウムを実施してきたが、今回は神戸大学震災10周年事業の一環として、国際学術NGO団体であるEMと協力して本学の国際連携に関する情報発信を行う。会議は2日間で、初日は公開シンポジウムであり、中国、インド、フィリピン等のアジア諸国の大都市からの代表者や国際協力 援助機関の参加を得て、人口集中が急激に進むアジア地域の大都市について、地震災害等による大都市災害への防災の実態、課題点 軽減策を公開討論し、対応策の実現に向けて国際協力を図る。 | なし | 神戸国際会議場 503-504-505会議室 | 1月21日(金) 9:00-18:00 |
| 10038 | 神戸大学都市安全研究センター | アジア地域の大都市における災害軽減策 | 078-803-6437 | 078-803-6394 | ytgeotec@kobe-u.ac.jp | | | 50 | 神戸大学都市安全研究センターでは、毎年この機会に防災に関するシンポジウムを実施してきたが、今回は神戸大学震災10周年事業の一環として、国際学術NGO団体であるEMと協力して本学の国際連携に関する情報発信を行う。会議は2日間で、初日は公開シンポジウムであり、中国、インド、フィリピン等のアジア諸国の大都市からの代表者や国際協力 援助機関の参加を得て、人口集中が急激に進むアジア地域の大都市について、地震災害等による大都市災害への防災の実態、課題点 軽減策を公開討論し、対応策の実現に向けて国際協力を図る。二日目は、代表者間での大都市防災に関する国際間協力の具体策を討議する。 | なし | 神戸商工会議所 役員会議室 | 1月22日(土) 8:30-18:00 |
| 10039 | 兵庫県治山課 | 治山シンポジウム-震災復旧と地震対策工法の開発- | 078-362-9227 | 078-362-3952 | takamasa_oota@pref.hyogo.jp | | | 200 | 震災後に実施した山腹崩壊調査により判明した被害状況及びその特徴とへりによる空中電磁探査を利用した山地災害危険地の把握について紹介する。また、フェニックス計画に基づき実施した治山対策について検証を加える。震災による山腹崩壊の発生を教訓とし、六甲地区において地震に強い山工法の検証と新技術を活用した工法(ロックボルトロープネット併用工法)の開発を紹介する。 | なし | 神戸商工会議所 神高ホール | 1月21日(金) 10:00-12:00 |
| 10040 | 国土交通省近畿地方整備局 | 阪神 淡路大震災シンポジウム | 06-6942-4090 | 06-6942-7463 | nakamura-n86id@kk.mlit.go.jp | http://www.kkr.mlit.go.jp/ | 必要 FAX: 06-6941-0174 TEL: 06-6910-5953 e-mail: kaneke-takeshi@kyokai-kinki.or.jp takayama-nasuki@kyokai-kinki.or.jp takayama-nasuki@kyokai-kinki.or.jp 〒540-0037 大阪市中央区内平野町2-1-9 シグナスビル4F ? 近畿建設協会 企画部 阪神 淡路大震災シンポジウム事務局 募集係 担当 金子、高山 | 300 | 阪神淡路大震災により多くの生命 財産とともに、河川 道路 港湾等社会資本インフラが被害の大被害を受け、大きな社会経済的の害を及ぼした。この度、国連防災世界会議の一環として、阪神淡路大震災を経験した国土交通省地方整備局として、全国各地の国 自治体等公約機関のインフラ関係者や建設分野の方々を対象に、シンポジウムを開催し、震災時の緊急対応や復旧 復興に関する経験や教訓を伝え、今後の防災機能強化や危機管理意識向上に資するものである。 | あり | 神戸国際会議場 301会議室 | 1月20日(木) 9:30-17:00 |
| 10041 | 板硝子協会 | 災害によるガラス事故の実態、災害に強く安全なガラスを | 03-5610-0147 | 03-5610-0150 | naoya-nisida@agc.co.jp | http://www.asahiglassplaza.net | | 110 | 実際にあったガラスの破壊事故による事故事例をご紹介しますとともに、災害に強く安全なガラスを分かりやすくご説明いたします。【目次】ガラスの破壊事故による事故事例の紹介 阪神淡路大震災によるガラス被害の事例 日本の窓及びガラスの防災対策の状況 各国の窓及びガラスの防災対策の実例 災害に強く安全なガラスとは? | なし | 神戸商工会議所 第12会議室 | 1月21日(金) 14:00-17:00 |
| 10042 | 農林水産省近畿農政局、兵庫県、全国ため池等整備事業推進協議会、水士里ネット兵庫、兵庫県ため池等整備事業促進協議会 代表 農林水産省近畿農政局 | ため池防災シンポジウム | 075-451-9161 (内線2574) | 075-417-2090 | tameike_shinpo@kinki.maff.go.jp | http://www.kinki.maff.go.jp/ | 必要 <主催団体の申し合わせ申込先の住所> FAX: 078-341-0507 TEL: 078-341-0500 〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5-5-12 兵庫県土地改良事業団体連合会(水士里ネット兵庫) 宛 | 200 | 全国には約21万もの多いため池があり、かんがい利用されるばかりでなく、思いやりやレクリエーションの場として地域住民に親しまれており、地域の財産であるため池を保全していくことが重要である。しかし、一方では台風23号等近年各地で豪雨が頻発し、また、新潟県中越地震等大地震が発生するなど、ため池が被災する可能性が高まっている。また、来年は阪神淡路大震災10周年にあたることから、大震災の被害及び復興を通して得られた教訓をため池の防災対策に活かすため、ため池の防災」をテーマにシンポジウムを開催する。 | なし | 神戸国際会議場 401-402会議室 | 1月21日(金) 14:00-17:30 |
| 10044 | 独立行政法人 港湾空港技術研究所 国土交通省 港湾局 | これからの津波防災に関する国際シンポジウム | 046-844-9052 | 046-844-1274 | tomita@pari.go.jp | http://www.pari.go.jp/ | 必要 〒239-0826 神奈川県横浜須賀町長瀬3-1-1独立行政法人 港湾空港技術研究所 高瀬津波研究室 富田孝史 | 150 | 津波による被害は広域かつ甚大になるが、それを防ぐことは、想定規模以上の津波の来襲、住民等の防災 意識低下等、種々の要因によって必ずしも達成できていない。津波から人命や財産を守るためには、迅速かつ的確な避難のためのソフト対策とハード対策を地域の特性に応じて総合的に実施する必要がある。このためには、ハード対策の有効性の定量的な把握、津波被害の事前の推定、津波来襲に先立った情報伝達も大切である。本シンポジウムでは、津波の数値計算、模型実験及び津波情報等の防災 減災対策に関する世界の最新の研究成果を発表し、津波から人命及び財産の損失を軽減させるためのこれからの津波防災 減災 技術を提案する。 | あり | 神戸国際会議場 501会議室 | 1月18日(火) 10:00-12:00 |

国連防災世界会議 シンポジウム・セミナーの概要

| 登録番号 | 団体名 | シンポジウムタイトル | TEL | FAX | E-mail | URL | 事前申込みの有無 | 予想参加人数 | シンポジウム概要 | 通訳の有無 | 決定会場 | 使用日時 |
|-------|--|---------------------------------|------------------------------|-------------------|--|--|--|--------|--|-------|---------------------------|--|
| 10045 | 国土交通省、国際建設技術協会 | 国際洪水ネットワーク第2回総会 | 03-5253-8444 | 03-5253-1602 | kunitomo-m82ac@mlit.go.jp | http://www.internationalfoodnetwork.org/index.html | | 100 | 国際洪水ネットワーク (FNet) は洪水による人命の損失と損害の軽減させること、貧困と環境悪化の悪循環を断ち切る政策および実践を促進し安全で持続可能な未来につなげることを目的として、2003年3月に京都で行われた第3回水フォーラムに続いて設立された。FNetは、洪水管理者や学術研究者が情報を交換し、各々がやっている活動をより効果的にするための場を提供している。この第2回総会では、年次活動報告、FNetの目的に関連するプロジェクト及びその他の活動に関する参加者による報告、今後の活動プログラムの話し合いが行われる。 | あり | 神戸国際会議場 401/402会議室 | 1月19日(水) 14:00 - 17:00 |
| 10046 | | 文化遺産を災害から守るために | 077-561-2737 | 077-561-2667 | murahasi@se.ritsumei.ac.jp | http://www.ritsumei.ac.jp/se/rv/coe/ | | 200 | 人類はその長い歴史の中でそれぞれの文明を創出し、知恵の頂点を結晶した文化財を残し、それを取り巻く歴史都市環境を生み出してきた。しかし、このような文化遺産は地震、火災、洪水、あるいは戦火によって多くが失われてきた。代替性のない文化遺産をもつ歴史都市を自然災害から守り、それを後世に継承するためには、従来の災害科学や防災工学の枠組みを超え、人文科学や社会科学の見地も含めた取り組みが必要不可欠である。そこで「文化財防災に携わる機関や学会が連携して文化遺産防災連絡会議を構成し、文化遺産を核とした歴史都市の防災、文化遺産の自然災害史、被災した文化遺産の修復等に関するシンポジウムを実施する。 | あり | 神戸国際会議場 401/402会議室、502会議室 | 1月19日(水) 10:00 - 12:00 1月20日(木) 10:15 - 16:50 |
| 10047 | 危機管理研究会 神戸安全ネット会議 | 危機管理研究会 神戸安全ネット会議 警学官ネットワークセミナー | 078-322-6238 | 078-322-6031 | hiroki_sumada@office.city.kobe.jp | http://www.kobe-anzen.net/ | 必要 | 200 | 1 活動報告 神戸安全ネット会議は、平成13年4月の発足以来、講演会や自主研究により危機管理に関する研究を進めているほか、平成15年9月には、全国的にも珍しい、支援者を中心とした帰宅困難者支援実験を実施し、その結果に基づき、会員間の相互連絡用に掲示板を設置するなど、連携体制づくりに取り組んでいる。そういったこれまでの活動をとりまとめ、震災を経験した神戸ならではのノウハウなどを報告、発信する。2 基調講演 危機管理をテーマにした基調講演を、外部から講師を招き開催する。 | あり | 神戸国際会議場 501会議室 | 1月21日(金) 13:30 - 17:30 |
| 10048 | 兵庫県災害医療センター 独立行政法人国際協力機構兵庫国際センター 災害人道医療支援会 | 災害医療における国際協力 | 078-241-3131 | 078-241-2772 | shinbug@hemc.jp | http://www.hemc.jp/ | | 200 | JICA兵庫と兵庫県災害医療センターが毎年実施してきたアジア災害医療マナーセミナーと併修及び中米地域防災対策研修会。本年度は国連防災世界会議と同時期に開催する。この機会を活用し、この参加研修員の方々の中米地域11カ国の災害医療及び防災行政の現状と課題についてpublicに紹介、発表していただくとともに、あわせて兵庫県災害医療センター、災害人道医療支援会 (HuMA) から、わが国からの災害医療分野での国際協力の実際についてプレゼンテーションを行う。これらの発表に対する質疑応答とディスカッションを通じて、発表者及びシンポジウム参加者の災害医療における国際協力のあり方についての相互理解を促進する。 | なし | 神戸国際会議場 501会議室 | 1月19日(水) 14:00 - 17:00 |
| 10049 | CODE海外災害援助市民センター | 震災10年と市民社会 | 078-574-7744 | 078-576-3693 | info@code-jp.org | http://www.code-jp.org/ | | 120 | 大都市KOBEを直撃した阪神・淡路大震災から10年が経った。10年間の復興の過程は、高齢化社会や多文化共生社会の縮図でもあった。社会の複雑なニーズや課題を解決するには、単線的な発想から複線的な発想と課題種別別の対応策作りが必要である。ボランティアな市民活動から様々な提案や知恵が生まれ、高まったものの、震災10年市民検証の報告。2004年12月に行われる「市民とNGOの防災国際フォーラム」の成果、CODEの取組(海外での災害救援の経験、それらをシェアし、地球市民として安心で安全な市民社会への取組)を伝える。 | あり | 神戸国際会議場 501会議室 | 1月20日(木) 14:30 - 17:00 |
| 10050 | 多宗教共存都市 KOBEフォーラム実行委員会 | 多宗教共存都市 KOBEフォーラム 神の戸が開かれた地 | 078-333-7052 | 078-391-3930 | lineargcp@ybb.ne.jp | | 必要 | 600 | | あり | ネザーランドセンター | 1月21日(金) 午後 |
| 10051 | 関西学院大学 | 災害救援の視点 - 神戸市長田区から世界へ | 0798-54-6104 | 0798-54-6905 | research@kgo.kwansei.ac.jp | http://www.kwansei.ac.jp | | 200 | 人はなぜ大震災の救援に駆けつけるのでしょうか。困っている人がいるから、本当にそつていよか、救命のためなら、救助、救済のシステム追加が重要だ。経済的援助なら、尊厳活動や行政による配慮のいそとに援助が必要だ。災害ボランティアが被災者にもたらすものは「不幸な目に会ったけれど、この社会は信じられる」といふ交流のメッセージではないでしょうか。阪神・淡路大震災から10年、最も多くの死者を出した神戸市長田区を対象に、なぜ多くの人が犠牲になったのか、どうして住民は帰ってこれなかったのか、そこにはボランティアのメッセージは届いたのか、一地域のなかで世界の救援の問題を仔細で考えてみましょう。 | あり | 神戸国際会議場 501会議室 | 1月18日(火) 14:00 - 16:00 |
| 10052 | 地域防災シンポジウム in 神戸実行委員会 | 地域防災シンポジウム in 神戸 | 078-322-6487 | 078-322-6031 | masamichi_kakimoto@office.city.kobe.jp | | 必要 FAX:078-366-3496 TEL:078-360-6101 〒650-0044神戸市中央区東川崎町1丁目5-7 神戸情報文化ビル9F 神戸新聞マーケティングセンター内 | 300 | 防災及び神戸の復興に関するパネルディスカッションや、市内の子供たちによる合唱等を実施。 | あり | 神戸国際会議場 メインホール | 1月18日(火) 13:30 - 17:00 |
| 10053 | 宇宙航空研究開発機構 | アジア地域における人工衛星技術の災害利用に係るワークショップ | 03-6221-9004 | 03-6221-9191 | matsuura.naoto@jaxa.jp | | | 200 | 毎年、世界各地で様々な災害が発生し多大な被害を受けている。災害発生時の速やかな災害状況把握のための情報収集が、被害拡大防止、災害復興の効率的な推進に繋がる事が示唆されている。人工衛星の技術は、広域の状況収集や、地上インフラに頼らずに情報伝達が出来る点など、災害時の利用が期待されているが、現状、限られた国での利用が盛られているにとどまっている。本ワークショップでは、アジア各国の防災機関、宇宙機関他からの有識者の参加により、アジア各国での衛星利用の現状および今後の展望を紹介するとともに、人工衛星技術の更なる利用促進のための意見交換を行うものである。 | あり | 神戸商工会議所 神商ホール | 1月20日(水) 9:00 - 17:00 |
| 10054 | 中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会 小委員会 | 歴史災害の経験と知恵の継承 | 03-5253-2111 | 03-3597-9091 | | http://www.bousai.go.jp/jshin/chubou/kyoukou/index.htm | 必要 TEL 03-3501-6996 〒100-8969 東京都千代田区霞ヶ関1-2-2 中央合同庁舎5号館 (事務局 内閣府防災担当) e-mail minishig1@op.cao.go.jp | 300 | 日本列島が過去に経験してきた自然災害を科学の力で解き明かすとともに、歴史災害を経験した地域社会に語り継がれている事柄を発掘し、災害に強い社会を作るための知恵や、次世代に語り継ぐ方法を模索することを目的として開催します。 結論提供では、歴史災害を題材として、各研究分野の第一人者が、それぞれの専門領域における成果を解説、紹介し、問題提起を行います。引き続き「パネルディスカッション」では、経路提供、発表者、各担当者/パネルの知見を紹介しつつ、次世代に引き継ぐべき知恵をそれぞれの立場から討議します。 | あり | 神戸国際会議場 502会議室 | 1月19日(水) 14:00 - 17:00 |
| 10055 | 東京駅周辺防災隣組 (地域協力会) | 企業間の共助による防災対策 | 03-3287-5353 (三越地所南都市計画事業室内) | 03-3211-7675 (同上) | masaharu_mizuguchi@mec.co.jp (同上) | | | 100 | 東京駅・有楽町駅から皇居、霞が関、永田町に連担する大手町・丸の内・有楽町・内幸町地域は世界的な経済・文化機能が集積する地域です。既に稼働している丸の内線は、2002年の大規模な改修工事を経て、さらなる高層ビルが建ちあがり、東京駅・有楽町駅周辺の企業による地域協力会 (防災隣組) と都市防災専門の東京大学都市工学科・小出治教授研究室とが連携し、防災関連機関・団体とのコラボレーションにより、防災まちづくり、防災ビジネス、企業の社会貢献、更には新しいテーマであるゼロ対策も視野に入れ、各機関・団体の活動報告や研究発表を通じ関連で有意義な議論を行い、今後の企業による防災対策のあり方を模索します。 | なし | 神戸国際展示場 3B会議室 | 1月21日(金) 10:00 - 17:00 |
| 10056 | 遼ろつ会 | 震災10年シンポジウムin神戸 | 078-575-0561 | 078-578-3956 | rohken-seikoh@nifty.com | | | 200 | 二代続いた病院が全壊。その奥に在った住宅も全壊した。被災者の窮乏を目の当たりにし「何とかならねば」と考え、此れらの跡地に、予てからの懸望であった老健施設の開発を実現させる事に決断した。開設手続の為に五環の町を自転車で東奔西走。県庁と市役所への日参を始めたが、そこで見かけたのは至る所で人々の助け合い姿であった。捨てたものではない、人生を楽しむ強さ、強く心に響いたものである。そこで老健施設開設を果たした翌年、明石大橋開通にも協力し、サークル「遼ろつ会」を発足させた。震災10年、あの時を思い、この会のメンバーである各界を代表する方々が神戸の運命をアピールする。 | なし | 神戸国際展示場 3A会議室 | 1月18日(火) 14:00 - 16:00 |
| 10055 | 兵庫県社会福祉協議会 (ひょうごボランティアプラザ) 神戸市社会福祉協議会 | こうべからのメッセージ - 今問われる専門性 - | 078-360-8845 | 078-360-8848 | k-hasumoto@hyogo-wel.or.jp | http://www.hyogo-vplaza.jp/ | | 300 | 震災から10年、各地で災害が発生した場合に多くのボランティアが駆けつけるようになったが、今一度ボランティアの原点を検証し、またボランティアのコーディネーターなどの専門性について検証し、被災地からメッセージを発信する。現在、広範囲にわたる神戸市協、神戸市協、神戸市協の準備を進め、その他、県、市、全国社会福祉協議会、厚労省等省庁と連携や後援について調整・検討中である。なお、可能であれば、初日に公開シンポジウムを開催し、2日目に、それぞれの専門分野に別れ分科会を開催する。 | なし | 神戸商工会議所 神商ホール 第1・第2・第3会議室 | 1月19日(水) 10:30 - 17:15 |

国連防災世界会議 シンポジウム・セミナーの概要

| 登録番号 | 団体名 | シンポジウムタイトル | TEL | FAX | E-mail | URL | 事前申込みの有無 | 予想参加人数 | シンポジウム概要 | 通訳の有無 | 決定会場 | 使用日時 |
|-------|---|---|---------------------------|----------------|---|---|----------|------------------|--|-------|------------------------|--------------------------|
| 10058 | 社団法人 兵庫県建築会 | 震災記念特別講演会 | 078-996-2851 | 078-996-2852 | archit-k@axed.ocn.ne.jp | | | 200 | 阪神 淡路大震災を後世の教訓として震災当時現職の知事であり、筆舌に表し難い困難を克服しながら、現代の復興に大きく貢献された兵庫県前知事 藤野 隆雄氏(元兵庫県知事)を、改めて震災を振り返って頂き、震災とは何かについて講演をして頂く | なし | クオリティホテル神戸 (ホテルゴープル神戸) | 1月20日(水) 15:30- 17:00 |
| 10065 | 神戸新聞社 | いのちを守る市民スクール 市民救命士フォーラム&トライアル | 078-362-7010 | 078-360-5514 | wata-tk@kobe-ne.co.jp | | | 700 | 防災の最大の目的は「いのちを守る」こと。ひとり一人の市民が「いのちを守る」ためにできる1つの方法が「市民救命」の知識や技術を共有すること。世界レベルで「防災」を考える。国連世界防災会議の開催を期して市民レベルの「防災」の取り組みとして「市民救命士」を取り上げ、その意味や活動の実態を明らかにする。 | なし | 神戸新聞松方ホール | 1月20日(水) 14:00- 17:00 |
| 10066 | 減災と情報フォーラム実行委員会 | 減災と情報フォーラム 情報は人を救えるか | 078-362-7010 | 078-360-5514 | okuchi-m@kobe-np.co.jp | | | 600 | 巨大地震など大規模災害は突然に人々を襲う。人々は大混乱に陥り適切な行動がとれない場合が多い。行政も情報収集が難しく全体像が把握できない。適切な対策が講じられず、救命・救急活動も混乱を極める。また、大規模災害ほど二次災害の危険も大きい。被害を減らすための情報とは「緊急時に情報がどんな機能を果たせるか」との視点から、災害時の情報収集の在り方、収集した情報の適切な活用策、被災者への有効な情報発信の内容と方法などをハードソフトの両面から議論していく。阪神 淡路大震災の体験を踏まえるとともに、新潟中越地震や台風23号の水害被害で阪神 淡路大震災の教訓が生かされたかについても議論する。 | | 神戸商工会議所 神戸ホール | 1月20日(水) 10:00- 12:30 |
| 10067 | 国際協力銀行 | 日本の防災ノウハウ 途上国との架け橋に - 地方自治体の防災知見を生かした国際協力 - | 03-5218-3585 | 03-5218-3969 | h-kodera@jpic.go.jp | http://www.jpbc.go.jp | | | | あり | 神戸国際会議場 301会議室 | 1月18日(火) 13:30- 16:30 |
| WS002 | 世界気象機関(WMO) | 気象、気候、水に関する災害の防止と被害の軽減 (仮訳) | 022-7308958 Office | 022-7308023 | pla@wmo.int | www.wmo.int | | 250 | | | 神戸国際会議場 301会議室 | 1月21日(金) 9:15- 16:55 |
| WS003 | アメリカン・フレンズ サービス委員会 | 減災対策としての災害弱者支援 (仮訳) | 415-565-0201 extension 12 | 415-0204 | smcneil@afsc.org | www.afsc.org/emap | | 100 | | | 神戸国際展示場 3B 会議室 | 1月18日(火) 午前 |
| WS004 | アジア防災 災害救援ネットワーク(ADRRN) | パートナーシップによる災害リスクマネジメントの効率改善 (仮訳) | 81 78 262 5550/5551 | 81 78 262 5554 | izumi@un.org / president@mercy.org.my | http://www.adrm.net | | 100 | | | 神戸国際会議場 501会議室 | 1月22日(土) 午前 |
| WS005 | アジア地震学委員会(ASC)、国際地震学地球内部物理学協会(IASPEI) | 国際協力によるアジア太平洋地域の地震危険度評価とリスクマネジメント(ASCA 10th Anniversary) (仮訳) | 374-1 26-92-82 | 374-1 26-92-82 | sbal@aspe.am | http://www.aspe.am | | 100-110 | | | 神戸国際展示場 3B 会議室 | 1月19日(水) 全日 |
| WS006 | 国際連合大学(UNU) | 不測の事態に備えて 都市災害のリスクと脆弱性の軽減 (仮訳) | 81-3-3499-2811 | 81-3-3499-2828 | Herath@hq.unu.edu | http://www.unu.edu/ | | 100 | | | 神戸国際会議場 501会議室 | 1月19日(水) 午前 |
| WS007 | BGR、GTZ、InVenti及びタイ、ポリビア、モザンビーク、エルサルバドル、ベトナム、シンパプエ、アフガニスタンの提携機関 | 災害リスク軽減に向けた能力開発と技術利用 (仮訳) | 49-2434-828 | 49-2434-836 | katastrophenvorsorge@dkv.org | | | 200 | | | 神戸国際会議場 501会議室 | 1月21日(金) 午前 |
| WS009 | 災害対応協力機構 (CARD) | 明日の繁栄のために 防災 緊急対応活動による社会 経済力の強化 (仮訳) | 510-451-3140 | 510-451-3144 | MsAMJones@aol.com and CARD_Proj@yahoo.com | www.FirstVictims.org and www.PrepareNow.org | | No size estimate | | | 神戸国際会議場 501会議室 | 1月22日(土) 午後 |

国連防災世界会議 シンポジウム・セミナーの概要

| 登録番号 | 団体名 | シンポジウムタイトル | TEL | FAX | E-mail | URL | 事前申込みの有無 | 予想参加人数 | シンポジウム概要 | 通訳の有無 | 決定会場 | 使用日時 |
|-------|----------------|--|-------------------------|-------------------------|--|-------------------------------------|----------|---|----------|-------|--------------------|--------------|
| WS011 | エンティコ・コーポレーション | 防災に向けた地球観測及び調査活動 (仮訳) | 44-2077992222 | 44-2073402868 | ab@entico.com | http://www.entico.com | | 120-150 | | | 神戸国際展示場 2B会議室 | 1月19日 (火) 午前 |
| WS012 | ノキア・コーポレーション | 災害発生時の初期対応と緊急事態管理に適した通信手段 (仮訳) | 35-8718065970 | 35-8718065931 | tapio.j.makinen@nokia.com | http://www.nokia.com | | 120-150 | | | 神戸国際展示場 2B会議室 | 1月20日 (水) 午前 |
| WS013 | アメリカ国務省 | 災害時における動物と人の問題の接点 (仮訳) | 202-647-5070 | 202-647-4628 | roederia@state.gov, roederaway@yahoo.com | | | | | | 神戸国際会議場 401-402会議室 | 1月22日 (土) 午前 |
| WS014 | アメリカ国務省 | リスク軽減と先住民 (仮訳) | 202-647-5070 | 202-647-4628 | roederia@state.gov, roederaway@yahoo.com | | | 100 experts from the private sector and governments | | | 神戸国際展示場 2B会議室 | 1月19日 (水) 午後 |
| WS016 | 防災コンソーシアム | 発展途上国の若手研究者を対象とした災害リスク軽減のための応用研究補助金 (仮訳) | 00. 41. 22. 730. 44. 98 | 00. 41. 22. 733. 03. 95 | bruno.haghebaert@ifrc.org | http://www.proventionconsortium.org | | 150 | | | 神戸国際会議場 502会議室 | 1月22日 (土) 午前 |